

施策	5201 生涯学習環境の充実						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	無	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市民						
施策が目指す姿	生涯学習の拠点となる施設の整備充実及び、地域住民の相互学習による利用の促進を図る。						
成果指標	とちぎ未来アシストネット事業のボランティア年間活動回数 ...平成29年度で4,800回(現状値4,344回) 社会教育施設利用者数...平成29年度で787,000人(現状値715,624人)						
目 標 達 成 状 況		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	成果指標1 [回]	予定	2,000.00	4,500.00	4,600.00	4,700.00	4,800.00
		実績	4,344.00	7,851.00	8,526.00	8,322.00	8,267.00
	成果指標2 [人]	予定	702,000.00	718,000.00	735,000.00	753,000.00	787,000.00
		実績	709,353.00	739,408.00	812,465.00	782,875.00	793,709.00
		単位コスト	0.51	0.49	0.45	0.48	0.52
	成果指標3 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
	成果指標4 []	予定					
実績							
単位コスト							
トータルコスト (千円)	予定	388,041	357,787	412,753	337,745	408,725	
	実績	362,045	364,934	362,568	375,842	413,861	
内 部 評 価	貢献度	上位施策の目標指標「社教施設利用者満足度」を向上させるためには、社教施設への関心や利用者数の向上が必要であるため、本単位施策の目標値達成度による貢献度は高い。					
	達成状況	アシストネット事業ボランティア回数、社会教育施設利用者数ともに目標値を上回ることができた。					
	課題	アシストネット事業については、後継者育成などの課題に取り組む必要がある。また、施設は老朽化が進んでいることから、計画的な修繕が必要である。					
	取組方針	アシストネット事業については、会議、研修会等で課題解消に向けた検討を行う。また、施設については、計画的な維持管理を行うとともに、適正配置個別計画の検討を行う。					
外 部 評 価	本市におけるアシストネットの取組みは市内外から注目を集めており、担当部署の取組みは評価に値する。しかしながら、市民の中での知名度や理解は十分とは言えず、更なる周知を図ることが重要であり、それによって後継者育成などの課題解決の糸口も見えてくることが期待できる。スポーツや文化、福祉などの他施策との連携も含め、さらに工夫された取組みをお願いしたい。 社会教育施設の利用者については、計画期間を通じて目標を上回っているものの、施設の老朽化による修繕を求める声は少ない。市民に対して各施設の役割や目的を分かりやすく説明を行い理解を得ながら、施設の統廃合による合理化を進めることを期待したい。						
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	561801	生涯学習振興計画策定事業費				1,711	100
	562401	社会教育関係団体補助金(栃木)				515	100
	562402	社会教育関係団体補助金(大平)				2,456	100
	562403	社会教育関係団体補助金(藤岡)				1,257	100
	562404	社会教育関係団体補助金(都賀)				930	100
	562405	社会教育関係団体補助金(西方)				810	100
	563102	大平公民館管理運営費				44,178	100
	563106	岩舟公民館管理運営費				21,718	100
	563601	寺尾公民館管理運営費				20,783	100
567601	図書館システム管理費				18,900	100	

平成29年度 単位・基本 施策評価表 補表

施策	5201 生涯学習環境の充実		
区分	妥当性	妥当	社会教育法第5条に位置付けられている事務のため、市で行うことは妥当である。
	コスト削減の余地	有	本施策においては、社会教育施設の維持管理費が多くを占めているため、コスト削減は難しい。
	受益者負担	適正	使用料等の見直しについては、財政課主導の下、適宜行っていることから適正である。
	上位貢献度	有効	個々の事務事業の推進による貢献度が高いことから、単位施策貢献度が高いと判断した。
	類似事業の有無	無	
	成果向上の余地	有	施設の老朽化が進んでおり、適切な修繕により成果向上の余地があると判断した。
内部評価 【H29年度分】	貢献度	上位施策の目標指標「社会教育施設利用者満足度」を向上させるためには、社会教育施設の充実や利用者向上のための個々の事務事業の推進は貢献度が高いと判断した。	
	達成状況	とちぎ未来アシストネット事業については、文部科学大臣表彰を受賞するなど評価を受けており、成果指標となっているボランティア活動回数も目標値をクリアしている。また、平成29年度より市内全公立小中学校に導入されたコミュニティ・スクールや小中学校一貫教育との連携を行い、活動環境は更に充実している。平成28年度よりボランティア交流会を開催し、全市的なつながりを深め、情報の共有を図っている。 社会教育施設(公民館・集会所・コミュニティセンター・図書館)の利用者数については、前年度実績値を上回り、目標値をクリアしていることから、施設の利用環境改善及び講座等の充実が図られているものと考えている。	
	課題	とちぎ未来アシストネット事業については、年々成果をあげており、普及段階から継続・発展段階へと移りつつある。後継者育成など継続的に事業を発展させるための課題に取り組む必要がある。 施設に関しては、利用者数は増えているが、老朽化に伴う不具合などが発生しているため、適宜修繕をしている状況にある。	
	取組方針	とちぎ未来アシストネット事業については、コーディネータ等が参加する会議、研修会等で課題を抽出し、解消に向けた取組みを検討・推進していく。また、引き続き事業の啓発活動を行う。 社会教育施設については、引き続き計画的な修繕を行うと同時に、公共施設の再編計画との整合性を図っての適正配置個別計画の検討をしていく。	
内部評価 【前期5年分】	貢献度	上位施策の目標指標「社会教育施設利用者満足度」を向上させるためには、社会教育施設の充実や利用者向上のための個々の事務事業の推進は貢献度が高いと判断した。	
	達成状況	栃木未来アシストネット事業のボランティア年間活動回数、社会教育施設利用者数とも、前期5年分の目標を達成している。	
	課題	アシストネット事業は継続・発展の段階に入っていると考えられる。そのため、今後の施策・取組みが必要となっている。 社会教育施設の老朽化が進んでいる。	
	取組方針	アシストネット事業については、全市域的な情報交換等により課題解決方法の選択、実践を行う。 施設については、計画的な修繕を行うと同時に、適正配置計画の検討を行い、魅力ある施設の提供を行う。	